

文化の風が吹くまち ちくしの

文化薫道

問い合わせ先／文化財課

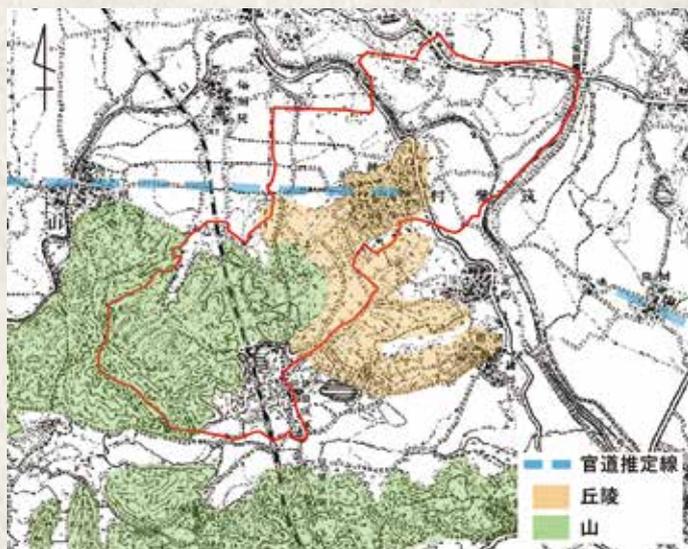
―其の三十八―

地形と地名「ながおか」

市の中央に位置する永岡は、約千年前から地名が残っている地区です。

平安時代に編さんされた『延喜式(えんぎしき)』(927年完成)には長丘駅として、また、『和名類聚抄(わみよじりじゆしよ)』(931〜938年編さん)では、長岡郷として「ながおか」が登場します。

長丘駅は、駅路(古代道路)の30里(約16km)ごとに設置された「駅」の一つです。古代大宰府から豊後国方面へ向かう駅路の最初の駅とされ、今の永岡の北東丘陵に存在したのではないかと考えられています。



永岡丘陵と駅路(明治33年地形図 永岡周辺) ※赤い線は現在の永岡地区

されています。

長丘駅があったとされる永岡地区の古地形図を見ても、西側の山から東へ長く丘陵が続き、平野に突き出す見晴らしがよい地形をしています。このような立地であるた

め、弥生時代から集落が営まれる場所になります。昔から集落の拠点、古代には交通の拠点として重要視されてきたことが、「ながおか」の地名が現在まで残った理由ではないのでしょうか。

郷とは、古代の行政単位の一つで、市の南部の広大な範囲が長岡郷の郷域であったと

